

学校だより

光輝燦然

～ 磨け！自分の色 ～

第26号 令和4年9月30日（金）発行 発行責任者 校長 馬場廣明

中体連新人戦、西中生各競技で頑張りました！ 野球、2連覇達成！準優勝3種目と大活躍！！

コロナ禍の中、まずは中体連新人総合大会が無事に開催され、終了できたことが何よりも嬉しいことです。また、制限はあるものの保護者の皆様の観戦（声に出さない、心の中での応援ですが）もできるようになってきました。しかし、新型コロナウイルスについては、絶対に油断してはいけません。「あと少しの我慢である。」とは信じていますが、感染対策は今までどおり万全にしていく必要があります。ご家庭でのご指導とご協力を今後ともよろしくお願いいたします。このような状況の中ではありましたが、本校生徒は各競技で大活躍をしてくれました。



なお、詳細につきましては、ノパメールやホームページでお知らせしましたとおりです。今後は種目によって県中大会や協会主催の大会などが開催されるようです。ぜひ、来年の6月の中体連総合大会に向けて、今後も更に練習に頑張ってくれることを期待しています。また、これから迎える各種大会は、2年生にとっては全てが中学校時代の最後の大会となってきます。悔いを残さず、初心を忘れずに一步一步前に進んでください。

なお、団体・個人の部での第3位まで入賞した部活動並びに、生徒につきましては以下のとおりです。大会期間中、多くの保護者の皆様に各会場で心温まる応援、ありがとうございました。

【団体の部】

優勝： 軟式野球

準優勝： サッカー、ソフトテニス女子、バスケットボール女子

第3位： バレーボール女子

【個人の部】

第3位： 卓球男子ダブルス ●● ●（1の2）・●●●●（1の3）ペア

： 同 ●●●●（2の4）・●●●●（2の4）ペア

： 卓球女子ダブルス ●●●●（2の1）・●●●●（2の3）ペア

生徒会役員選挙・立ち会い演説会、立候補者演説より

9月21日（火）に行われました生徒会役員選挙・立ち会い演説会で、副会長に当選しました●●●●さん（1の1）の演説内容がとても印象的でした。夏の全国高校野球で優勝した仙台育英高校の須江 航監督の試合後のインタビューの内容を例に挙げながら、「青春って、すごく密なので。」もしも、私が当選したならば、「こんなことをやってみたい」「コロナ禍の中だからこそみんなで協力して、たくさんの思い出を作っていきたい」などの内容でした。仙台育英高校の全国優勝、優勝旗が初めて白河の関を越えて東北地方に来たこと。これからの西中生もこれに負けないくらい、先輩方からの伝統を継承し、「文武両道の精神」で生徒一人ひとりが輝いてくれることを祈るばかりです。すばらしい演説内容であったため、そのインタビューの内容をインターネットで調べましたので、ご参照ください。

仙台育英の須江 航 監督の優勝インタビューより、

◎ 初優勝おめでとうございます。

宮城のみなさん、東北のみなさん、おめでとうございます！

◎ ゲームセットの瞬間、少し目を押さえていらっしゃいました。どんな思いですか。

100年、開かなかった扉が開いたので、多くの人の顔が浮かびました。

◎ 宮城の皆さん、東北の皆さんの夢、叶いましたね。

準決勝、勝った段階で、本当に東北や宮城の皆さんからたくさんのメッセージをいただいて、本当に熱い思いを感じていたもので、それに応えられて何よりです。

— 中略 —

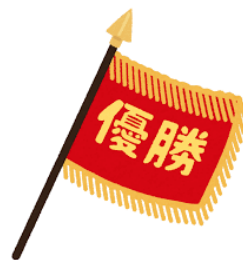
◎ 強力な投手陣5人を擁して、この甲子園でも継投で優勝まで至りました。

今日は本当に〇〇がよく投げてくれて。でも県大会は投げられない中でみんなでつないできて、つないできて、最後に投げた〇〇も、今日投げなかった3人のピッチャーも、スタンドにいる控えのピッチャーも、みんながつないだ継投だと思います。

◎ 今年の3年生は入学した時から、新型コロナウイルスの感染に翻弄されてきました。それを乗り越えての優勝。3年生にどんな言葉をかけたいですか。

入学どころか、たぶんおそらく中学校の卒業式もちゃんとできなくて。高校生活っていうのは、僕たち大人が過ごしてきた高校生活とは全く違うんです。青春って、すごく密なので。でもそういうことは全部ダメだ、ダメだと言われて。活動しても、どこかでストップがかかって、どこかでいつも止まってしまうような苦しい中で。でも本当にあきらめないでやってくれたこと、でもそれをさせてくれたのは僕たちだけじゃなくて、全国の高校生みんなが本当にやってくれて。

例えば、今日の下関国際さんもそうですけど、大阪桐蔭さんとか、そういう目標になるチームがあったから、どんなときでも、あきらめないで暗い中でも走っていったので。本当に、すべての高校生の努力のたまものが、ただただ最後、僕たちがここに立ったというだけなので、ぜひ全国の高校生に拍手してもらえたらと思います。



→ さて、私自身もこのような場面で子どもたちにこうした声掛けや気持ちで接することができるか、改めまして、気持ちが引き締まる思いです。毎日部活動を指導している先生方はどのような感想を持たれましたか。

改めまして、交通事故の防止に心がけてください。

今週の月曜日に登校途中にセブンイレブン様の前の歩道で接触事故がありました。自転車で学校に向かう生徒と買い物を済ませた方が駐車場から車道に向かうところでの事故でした。そこで改めまして、生徒の皆さんは、坂道のため自転車のスピードが出やすい状況ですので、うまくブレーキでスピードをコントロールしながら走行してください。また、車を運転される方は、歩道前で一時停止して、よく左右の安全確認をしてから車道に出てください。

ちょうど、私は携帯電話を忘れ右往左往していた時です。一人の女性の方が声を掛けてくれました。私は内容をお話し、中学校や須賀川警察署、被害者である生徒の保護者への電話連絡をお願いしました。自分の仕事にも支障があったかと思われませんが、とても心優しく丁寧に対応いただきました。この女性は何と本校の保護者の方でした。お子さまを学校に送って帰る途中だったようで、事故を気にされ立ち寄ってくださいました。私は改めまして、本校の保護者、この西袋地区の人の温かさを再発見できました。本当にありがとうございました。私にとってこのお母さんは女神に見えました。

また、翌日から私がお願いをしたわけでもなく、本校の先生方が1週間、事故現場付近で朝の登校指導を行ってくれました。本校の教職員の良さ・すばらしさもよく理解できました。

~本校ホームページのアクセス数が134万4千件を突破！いつもご覧いただきありがとうございます。~